

[環境的要因]

視 点	犯罪に至った環境的要因	支 援 目 標	領 域
経済的困難	○生活資金が足りなかった。 ○安定した生活資金がなかった。 ○公的年金を取得していない。	○生活資金の確保	所得保障
	○家族が本人の収入を当てにして 本人が必要なお金を使えない。 ○仕事に意欲がなく、職場を転々 とした為、収入が不安定である。	○就労による安定した生 活資金の確保 ○就労が定着できるよ うに就労そのものによる 生き甲斐作り。 ○就労意欲の喚起・動機 付け	就 労
	○手にしたお金はすぐに使ってし まった。 ○手軽な借金をしてしまう。 ○貯めると言うことが出来ない。	○計画性のある支出	金銭管理 買物支援
	○本人の所持金以上に購入したい 物があった。 ○本人の遊興費(食事・ゲーム等) の資金がほしいため。 ○たばこ等の嗜好品の購入のため (薬物購入も含む)	○生活の中での生き甲斐 作り	余暇支援
精神的不安 定	○安心して生活する居場所や集え る場所がない。 ○困ったときに、安心して帰る場 所がない。(駆け込める場所が 必要である)	○安心できる生活の場の 確保	住まいの確保
	○困ったときに相談できる人がい ないため不安定になる。 (信頼できる人がいない) ○自尊感情が低い、不安定。 ○困ったときに他人に相談するこ となく、自分ですぐに決めてし まう。 ○幼児期の人間形成の中で他人を 信用することを身につけてこな かった。 ○犯罪行為に至る前兆を支援者が 見逃した。	○信頼できる人間関係作 り	コミュニケーション

視 点	犯罪に至った環境的要因	支援目標	領 域
精神的不安定	○両親・家族や友人との関係が本人を不安定にしていた。 ○自己形成ができていないため、自分の行為が他者にどのような影響をおよぼすのかが分からない。	○信頼できる人間関係作り	コミュニケーション
	○同僚との関係がうまく行かず職員寮で鬱状態となる。そのことがきっかけとなり離職する。	○矯正施設で服用していた安定剤の調整 ○その他治療が必要と思われる症状・病気を入所期間中に軽快または完治させる。	健康管理
家族関係	○本人の幼児期に、適正な教育が受けられていない。 ○家族が本人の療育する能力が乏しかった。 ○家族の本人への療育能力が乏しかった。 ○家族が本人への療育を放棄している。 ○本人の障害特性を家族が理解していない。	○家族による信頼できる人間関係作り ○家族の療育能力の向上	家族関係の修復
	○家族が本人を支える経済的基盤が整っていない。 ○家族の支援が他の家族（高齢者介護や他の家族の世話）に優先され、本人に向けられない。	○家族の療育能力の向上 ○家族の経済基盤の確立	家族支援
友人関係	○頼る友人に利用され、犯罪に巻き込まれた（累犯の原因） ○犯罪集団の関与が見られる。	○悪い仲間との絶縁	コミュニケーション

資料③ 「プランニング表」用具体的支援方法モデル

[本人の認知・治療教育的要因]

支援の領域	支 援 方 法
1. 法令遵守	1. 遵守事項（＊）の設定 2. 本人との話し合い 3. 保護司・保護観察所との連携 4. 女性の性犯罪への対応 5. 男性の性犯罪への対応 6. 支援チームによる支援（地域移行後） 7. 再犯時支援（地域移行後）

＊「遵守事項」 施設利用時等にあつたての施設長等との約束事であつて更生保護法第50・51号での遵守事項とは異なるもの

[環境的要因]

支援の領域	支 援 方 法
2. 生活基盤	
① 住まいの場の確保	1. 障害関係施設利用 P.44 2. グループホーム・ケアホーム利用 P.46 3. 単独生活 P.46
② 所得保障	公的年金の取得 P.46
3. 健康管理	各医療機関との調整 P.46
4. 家族環境の整備	1. 家族環境の修復 P.48 2. 家族支援の依頼 P.48
5. 社会的リハビリ	
① コミュニケーション	1. 安心できる場所の確保 P.48 2. 地域生活定着（地域移行後） P.50
② 社会生活技術	1. 金銭管理 P.52 2. 余暇支援 P.52
③ 就労	1. 就労意欲の向上 P.54 2. 就職活動支援 P.54 3. 就労定着支援（地域移行後） P.56 4. 離職した場合の支援（地域移行後） ... P.58

資料③ 「プランニング表」用 具体的支援計画方法モデル

本人の認知・治療教育的要因

領 域	支 援 方 法	具 体 的 支
1. 法令遵守	1. 遵守事項の設定 (約束事の設定)	<p>① 遵守事項の設定、本人との確認。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 施設管理者より説諭・伝える。 * 障害特性を理解して、本人が覚えられる具 * 守れなかった場合の処遇も明確にする。 * 2つ程度の内容にする。 * 本人の能力によっては図式化・視覚化して <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設より無断で出て行かないこと。 ・矯正施設に入った犯罪行為をしないこと。 ・女性が嫌がること(性的いたずら)はしな ・アルコールは禁止(施設の方針に基づく)。 ・喫煙は所定の場所で行うこと。(施設の方 喫煙に強い固執を示す場合がある。 喫煙本数や時間と場所など確認し、段階 ・自転車は施設の物があるので必要なときは ・施設のスケジュールを守ること。 ・職員の指示は守ること。 ・他人の物は盗らない。 ・車の運転はしない。 <ul style="list-style-type: none"> * 本人が「はい、わかりました」という言葉 るとは限らない。その場をつくろうために使 * 遵守事項や施設の規則が守られているか随 * 面接を適宜実施し、生活状況や心情の変化 <p>② 矯正施設入所中からの継続的なアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> * 施設面接の実施 * 手紙のやりとり
	2. 本人との話し合 い	<p>① 矯正施設入所中(面接)から話し合いの 確認)</p> <ul style="list-style-type: none"> a 犯罪について本人の考えを聞く。 犯罪に至った要因について再度確認する。 b 相談できる関係を構築する。(問題行動《再犯 c 手紙での相談および対応。 d 移行期 i 受け入れ時に行った「振り返り」「被害者へ ii 再犯した場合のシミュレーションを行い、 いること」の自覚を持たせる。 <p>② 毎日の事柄を日記に記入する。</p> <p>③ 毎日、夜に夜間勤務者(夜勤者等)がミ を中心に(短時間でも)話し合う。(原則と</p> <p>④ 支援に当たる者は情報を共有出来るよう</p>

援 方 法	期待される効果
<p>体的な内容を選ぶ。</p> <p>示すことが重要である。</p> <p>いこと。</p> <p>針に基づく)</p> <p>的に安全な自己管理に結びつけていく。 断った上でそれを使うこと。</p> <p>を発することがあるが、必ずしも理解している場合もある 時確認する。 を把握する</p> <p>チ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会における社会人として、集団生活でのルールへの意識を持ち、守ることを通して生活リズム、生活習慣等確立する。 ・ 新たな生活に対しての意識の切り替えをさせる。 ・ 過去の過ちに関連する行為は決してしないことを確認、自覚することにつながる。 ・ 成長期における人格形成の中で、家族・友人との人間関係において信頼することがうまくできない者も多い。禁止するだけでなく、約束を守ることで賞賛し、認めることで自分の存在に自信がつくことがある。 ・ 帰住前に信頼関係を構築することで入所後の処遇が円滑化する。
<p>場を設定する。(将来にむけてのニーズの</p> <p>》を起こす前に)</p> <p>の自分の思い」を確認する。 「どうなるか」「それが自分の目標とかけ離れて</p> <p>ーティングを行い、日記に書かれたこととして受容する。)</p> <p>にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員（支援者）との信頼関係の構築につながる。 ・ 人のつながりの大切さや、楽しんだり、頼りにされたりといった充実感や安心感を持てるようになる。 ・ 相手の立場や気持ちに触れることで思いやる気持ちが生まれる。 ・ 文字や写真など、わかりやすく簡単なツールを補足的に使用することにより理解を深められる。 ・ 相談する力がつく（地域生活で困ったときなど誰かに相談すること）。 ・ 自立生活への不安や心配ごとに対して受容し助言指導することにより不安を軽減させ、前向きな気持ちを保たせられる。 ・ 罪の重大さを気づかせる機会になる。 ・ 再犯が懸念される本人の不安や危険な行動を早期に把握できる。

領 域	支 援 方 法	具 体 的 支
1. 法令遵守	3. 保護司・保護観察所との連携	<p>① 仮釈放期間中の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> a 保護司又は保護観察官による面接の実施。 b 自ら保護司に連絡、相談をすることを基本と とで、詳細情報の伝達、本人の状況の変化に関 i 保護観察期間中は、保護司や保護観察官と ii 保護観察における遵守事項について拡大コ iii 懸案事項のある際には保護司との面接時に <p>* 更生緊急保護期間は、保護観察が付いていない 保護施設に入所中の場合は施設職員が補導援護</p> <p>* 視覚的に刺激し、反復することで自覚を促す</p>
	4. 女性の性犯罪への対応	<p>① 自分の身体を守るという事を知ってもら 開催する。</p> <p>② ビデオなどを活用して女性保護に関して</p> <p>③ 精神科医師及び臨床心理士による定期的 カウンセリング情報の支援者への共有化</p> <p>④ 対応する職員が性的行動に関する部分に 修が必要である</p>
	5. 男性の性犯罪への対応	<p>① 入所時の遵守事項として禁止する約束事</p> <p>② 24時間体制での本人の見守り</p> <ul style="list-style-type: none"> a 生活上の行動範囲の制限。 b 日中活動の場への送迎。 c 解りやすいスケジュールの確立と明示。 d 環境の変化に対応した配慮。 <p>③ インターネットからの情報閲覧制限。</p> <p>④ 精神科医師及び臨床心理士による定期的 カウンセリング情報の支援者への共有化</p> <p>⑤ 入所時は同性支援が必要となる場合があ (女性職員に対する被害を防ぐため) (宿直については原則として同性が行う)</p> <p>⑥ 対応する職員が性的行動に関する分につ が必要である</p>
	6. 支援チームによる支援 (地域移行後)	<p>① 初期定着期</p> <ul style="list-style-type: none"> a 情報の共有化を図る。(相談支援事業所、就業 b キーパーソンとなる支援者の確保をする。(家 c キーパーソンは必要に応じて男女1人ずつ配 <p>② 中期定着期</p> <p>情報の共有化を図る。(相談支援事業所、就業 職業センター、ジョブコーチ、弁護士、事業</p>

援 方 法	期待される効果
<p>して自覚を持たせると共に、支援者が関わるこ する情報の共有を図る。</p> <p>の面接面談に協力する。 ピーし居室に貼って毎日復唱する。 支援者が同席。</p> <p>いので保護司等が関与することはなく、更生 にあたる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護司等の立場からの本人の状態の確認。 ・ 本人状況の変化を早期に把握できる。 <p>＊ 保護観察期間が終了した時に、第3者的に話を聞 いてくれる者が居なくなる。他の存在の者とうま く橋渡しができることが必要である。</p>
<p>うため、女性支援者と定期的な勉強会を</p> <p>知る機会を作る。</p> <p>カウンセリング</p> <p>については毅然とした姿勢が取れるよう研</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の身（身体）を守ることの大切さを理解する。 ・ 本人を否定するのではなく、肯定することで、安 心感持ってもらい、本人の交友関係の幅を広げる ことができる。 ・ ヘルプが言える人間関係を構築する。
<p>として明確にする。（遵守事項の設定）</p> <p>カウンセリング</p> <p>る。</p> <p>いては毅然とした姿勢が取れるよう研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人の状態像の把握ができる。 <p>・ 情報の制限をすることにより、刺激を抑えられる。 ・ 専門的治療教育の実践につながる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本人の状態像について、あらゆる角度から検証す ることで把握が容易にできる。 ・ 社会のルールへの対応。
<p>、生活支援センター、家族、保護司） 族も含めたトータルマネジメント） 置することがある。</p> <p>、生活支援センター、ハローワーク、 障害者 主、家族）</p>	<p>＊ 詳細は「受け入れマニュアル」地域生活支援セ ンター編を参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単一事業所が抱える仕組みからチームアプローチヘイ ンフォーマルな資源開発も含め情報を共有する。 ・ 事業主もチームに入ることによって支援の輪が広げら れる。 ・ 借金対策、被害者への弁償等で弁護士の参加が 必要となることがある。

領 域	支 援 方 法	具 体 的 支 援
1. 法令遵守	7. 再犯時支援 (地域移行後)	① 再犯により逮捕された場合は、速やかにし、どのような状況にあるのか把握する。 ② 勾留されている場合は、本人と面会する。 ③ 服薬の必要性など医療情報を伝える。 ④ 当番弁護士の派遣を依頼する。 ⑤ 支援会議を開催し本人の情報を収集、な いて検討する。 ⑥ 本人の中で、地域生活上の情報や感情が 入所施設の利用も考える。 ⑦ 矯正施設入所中は、本人と連絡（手紙） を行う。 ⑧ 矯正施設入所後も継続的に面会する。 ⑨ 関係機関への連絡と連携。

環 境 的 要 因

領 域	支 援 方 法	具体的支援方法
2. 生活基盤 ① 住まいの場 の確保	1. 障害関係施設 利用 (ショートステイも含む)	① 入所期 生活寮での生活支援（個室が理想である） i 必要物品の確保（所持金が少なく自分では ii 寝具、家具など必要最低限の物品の確保 iii キーパーソンを決める。（本人の相談窓口） ＊ キーパーソンの位置づけ参照 iv 生活寮内の役割に積極的に関わらせる。 V 食料品は豊富に準備し、不足感を与えない。 vi 所持金・年金・工賃の中から計画的な支出 vii 決められた小遣いで施設内の自由な買い物。 viii 余暇時間での買い物訓練。 ix 街から離す。（刺激が少ない場所） ② 中間期 施設内自利訓練棟（職員宿舎等）での生活支援 i 集団生活から小集団への生活。 ii 人間関係を構築する 自分の役割を見つけ協力し合うことを体 他者の意見を聞き入れる場をつくる（本 iii キーパーソンを決める。 ③ 移行期 地域での生活体験 できるだけ早い時期に、本人の希望により、施 での訓練）を経て、グループホームやアパート生 i グループホームか単独生活の検討する。 ii 短期入所事業⇒グループホーム・ケアホー

方 法	期待される効果
<p>所轄の警察に出向いて、担当刑事と面談</p> <p>ぜ再犯に至ったのか、釈放後の支援につ</p> <p>混乱している場合は、釈放後に一時的な</p> <p>を取り、退所後の生活に向けて意識付け</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・再犯に至った状況・原因を明確にできる。 ・面会の際にスタッフ全員が心配していることを伝えることで、再犯防止に繋がることもある。 ・関係機関との連携によりスムーズな支援ができる。 ・矯正施設の入所中から関わることで退所後の本人の安心につながる。

	期待される効果
<p>準備できない)</p> <p>計画を相談して決める。 (食品)</p> <p>験させる。 人の相談窓口)。</p> <p>設外の居宅生活訓練棟(地域のアパート・民家 活等地域生活移行を支援。</p> <p>ム・単独生活と言う方法も選択肢になる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共に生活することで本人の理解を深められる。 (本人特有の障害を理解する) ・物欲を満たすことにより、情緒の安定が図られる。 ・社会適応能力を養える。 ・物心両面において情緒の安定が図られる。 ・個室が効果(自分が安心出来る場所の確保) 居室の鍵を持つことで安心できる。 ・集団の中で役割を見出すことで周囲からの「ありがとう」と賞賛されることで初めて自分の存在を認められるということを体験できる。 ・罪の意識を持ち反省の姿勢を示す過程で、同時に次の生活への意欲モチベーションを高めていくきっかけを作っていける。 ・集団生活から小集団生活による自立を図る。 ・地域での生活への慣れ。 ・精神的に安定する。 ・他者との関係性を広められる。 ・他者の意見を聞く。 ・他者の決めた(作った)スケジュールから、自ら決める(作る)スケジュールへ変える。 ・生活における、安定感を得られる。 ・地域生活への意欲、再出発の意識化。 <p>*「受け入れマニュアル・地域生活支援センター」参照</p>

領 域	支 援 方 法	具 体 的 支
2. 生活基盤 ① 住まいの場の確保	2. グループホーム・ケアホーム利用	① 小集団の生活に慣れ、協力して生活でき ② 社会人としての自覚の基、社会的ルール ③ 食事管理・金銭管理・健康管理・相談の ④ 地域の行事等には積極的に参加するよう
	3. 単独生活	① 単独生活の中で一般社会人としてのルー 援する。 ② 金銭管理や健康管理、相談の受け皿とし ③ 地域の行事等には積極的に参加するよう
② 所得得保障	公的年金の取得	① 入所時期 a 生活保護の取得の受給 i 矯正施設入所中に申請準備を行い、退所と ・ 所持金（作業報奨金）の確認 収入認定される場合がある。 ・ 家族との世帯分離。 ii 施設生活に必要な最低限度の所得保障 ・ 利用料・食事・光熱費・医療費の保障 b 障害者基礎年金の申請 障害者基礎年金等受給者は、再交付手続き 金融機関預金通帳作成 c 成年後見制度の検討 d 医療機関受診（医療給付・年金申請のための i 障害者自立支援給付に係る医師意見書記入 ii 障害者基礎年金診断書記入依頼 ② 地域移行期 a 就労による賃金と障害基礎年金等で生活保護給 自立させる。 b 金融機関預金通帳作成。
3. 健康管理 （一般的医療ケア）	各医療機関との調整 健康の維持、精神的安定	① 一般的医療ケアの受診 a 既往歴の確認（必要な治療の継続） i 精神科 合併症の確認（発達障害や統合失 安定剤の服薬がある場合には、内 ii 臨床心理士のカウンセリングを受ける。 b 地域移行までの各治療計画の作成と実施 内科・歯科・皮膚科・耳鼻科・眼科、アレ c 健康保険証の申請（生活保護であれば不要）

領 域	支 援 方 法	具 体 的 支
4. 家族環境の整備	1. 家族関係の修復	① 音信不通となっている家族関係の調整を、 <ul style="list-style-type: none"> a 両親・兄弟との関係調整 <ul style="list-style-type: none"> i 家族の感情、意思確認 ii 面会や外出の依頼 iii 入所時の衣類や小遣いの提供依頼 iv 福祉制度上の身元引受人の依頼 b 家族への本人の障害や犯罪行為に対する理解 <ul style="list-style-type: none"> i 家族に対する障害特性の説明 ii 犯罪に至った要因の説明 iii 家族関係を良くしたい（一緒に生活したい） ② 家族自体の生活が経済的に自立しておら 援 <ul style="list-style-type: none"> a 世帯分離による本人の自立支援と、家族支援 b 福祉事務所からの家族支援
	2. 家族支援の依頼	① 家族との同居に向けての支援 <ul style="list-style-type: none"> a 家族との関係修復が可能な場合の同居に向け b 障害特性と支援計画の説明と理解 c 支援チームへの参加依頼 ② 家族自体の生活で養育が困難な場合の支 援 <ul style="list-style-type: none"> a 家族への経済的自立支援（生活保護等の所得 b 相談支援として民生委員の派遣 c 家族自体が障害者世帯であることでの支援 金銭管理への支援 相談支援 d 家族自体の高齢化により介護保険事業による
5. 社会的リハビリ	1. 安心できる生活の場の確保	入所時から退所まで及び地域移行時から地 就労支援を行う ① 入所時（集団生活での安定） <ul style="list-style-type: none"> a 生活状況の観察（詳細なアセスメント） <ul style="list-style-type: none"> i ADLの状況、健康面の観察。 ii 健康面、対人関係、社会性等の観察。 iii 作業の見学。（施設内） iv 受け入れ施設の職員による情報の共有。 v 生活状況等の援護の実施者への報告。（利用 b キーパーソンの配置 <ul style="list-style-type: none"> i 担当制により、なんでも話せる、相談や質 質問・悩みなどの回答はすべて担当者に 本人の味方であることの意識付けを行い ii 方向性について意見を言える係長クラスの iii 本人の意思確認 「どこで」「誰と」「どのように暮らした 計（地域移行）の確認

援 方 法	期待される効果
<p>福祉事務所を通して依頼する。</p> <p>の支援</p> <p>という願望を持っていることの説明。</p> <p>ず、本人の収入に依存している場合の支</p> <p>を切り離す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族・学校・職場が本人の障害特性を理解せず、過剰な期待と無関心ゆえ、家族から距離を置いた生活を送ってきた事実を家族に伝えることで家族の本人理解へつながる。 ・ 家族と一緒に暮らして自分が養いたいという本人の希望もあるが、どう接して良いのかわらなかったり、家族も本人にどう接して良いのかわからないことが多い。的確な助言を行うことで家族への本人理解や犯罪行為に対する理解が深まる。 ・ 家族自体の自立ができないため、家族も支援の対象とすることで一体的な効果が期待できる。
<p>ての準備</p> <p>援 保障)</p> <p>支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人は同居を希望していることが多いことから本人の心の安定が図られる。 ・ 親族などの関与が想像される連絡、相談の場合、本人の状況が正確に伝わっていない場合があることから相談方法を見直し「母親の訴えによる相談」から「自身で電話する、出向く等の方法による相談」とすることで状況を的確につかむことができる。
<p>域生活への定着支援まで段階的に生活・</p> <p>開始翌日、1週間単位)</p> <p>問ができる職員を位置づける。 集中させる。 信頼関係を作っていく。 職員を位置づける。</p> <p>いのか」中長期における、目指すべき生活設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生き直しのきっかけ作りになる。 ・ 規則正しい生活の構築により基本的な生活習慣が身に付く。 ・ 受入れ機関への信頼づくり。 ・ 安心できる又は信頼できる職員をつくることで本人の安心感が生まれる。 ・ 本人を否定するのではなく、肯定する事で、安心感をもってもらい、本人の交友関係の幅を広げ、新たな選択肢を増やすことになる。 ・ 恵まれない家庭環境の中で自信もない、どうしたら良いかわからない、甘え方もわからない、どう決めて良いかわからない中で、愛情を持てる関係作りを訓練することで自信をつけさせる。 ・ 自分勝手に決めてしまい、相談することを身につけていないため相談する力がつく。 相手の言うことを理解する。(状況認知) ・ むずかしい場面での対応ができるようになる。(妥協、断る、謝る)

領 域	支 援 方 法	具 体 的 支 援
5. 社会的 リハビリ ① コミュニケ ーション	1. 安心できる生活 の場の確保	<ul style="list-style-type: none"> c 対人関係能力への支援 <ul style="list-style-type: none"> i 毎日、日記を付けることで、日々の生活を ii 毎晩、夜間勤務者とのミーティングを行い ② 中間期（集団生活から個室等での生活訓 <ul style="list-style-type: none"> a 就労に必要な体力・挨拶の訓練 b キーパーソンの設定 c 個別支援計画の作成 d 障害福祉サービス事業（就労移行支援・生活 <ul style="list-style-type: none"> i 交友・友人関係の調整 ii エンパワメント支援（本人活動等への参加） iii コミュニケーションスキルの開発 iv 達成感の享受（能力による適正評価） v 障害者特性に配慮した支援を基底に。 （発達障害・自閉症等の方への専門的支援） vi 社会資源 ③ 地域移行期 <ul style="list-style-type: none"> a 地域での生活を前提とした、社会体験の実施 <ul style="list-style-type: none"> i 地域の外出、住民との接する機会を増やす。 ii 単独での外出・買い物を持つ 約束事を決めて目的ある外出を行う。 b 地域で生活する場合の社会資源を確認する。 障害者相談専門員、財産管理サポート事業、
	2. 地域生活定着 （地域移行後）	<ul style="list-style-type: none"> ① チームケアによる支援 <ul style="list-style-type: none"> a チームケアのもと支援する。 b 支援チームの編成 相談支援専門員、市町村障害福祉担当課、 アホーム、居宅介護事業所、就業・生活支援 支援チーム c 本人の情緒面・精神面でのキーパーソンを想 b 定期的に本人を含んだミーティングを開く。 本人の生活状況、支援内容について振り返 e 必要最小限の範囲で情報の共有化を図る。（市 他機関へは本人の特徴、配慮すべき点のみ ② 障害者相談支援専門員による定期的な支 <ul style="list-style-type: none"> a 手紙やメールでの定期的な連絡 b キーパーソンとしての位置づけ c 地域の社会資源の活用 d 本人と「立ち寄り先リスト」を作成する。 ＊ 相談支援専門員は1人で抱え込まないこと。 ③ 送り出した施設でのレスパイト機能を位 いつでも帰れる場所としての設定する。 ④ 夜間の対応 <ul style="list-style-type: none"> a 夜の外出が多く、緊急時の対応方法を事前に b 障害者相談支援事業所と障害者就業・生活支 時にはサービス管理責任者などが中心となる。 c 翌日の仕事への影響が出やすいため、夜間外 をつける。

方 法	期待される効果
<p>振り返る。 、自分の意見を述べる機会を作る。</p> <p>練、余暇活動)</p> <p>訓練)</p> <p>医療機関、行政手続き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを伝えられる。(あいさつ、協調、自己主張) ・生活する上で、課題が発生する度にどのように行動できたかを本人と共に振り返えられる。 ・地域移行に必要な社会資源も本人と共通のイメージを持つことで、本人の願いがどこにあるのか、優先順位は何かを確認できる。 ・支援者が本人の地域での生活自立に関する将来像に対して具体的イメージを持つことができる。
<p>保健所、日中活動事業所、グループホーム・ケアセンター、民生委員、医療機関（駐在所）で定する。</p> <p>り、必要に応じて支援内容を修正する。 （町村・保健所等） を伝え、犯罪履歴情報は最小限とする。</p> <p>援</p> <p>置づける。</p> <p>決めておく。 援センター、グループホーム・ケアホーム利用 出時等の行き先場所等の連絡を必ず入れる習慣</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援チーム全体が本人の将来像・情緒面や表現の仕方の変化に対して具体的イメージを持つことができる。 ・移行に必要な社会資源も共通のイメージを持つことができ、本人の願いがどこにあるのか、優先順位は何かを支援チームが確認できる。 ・定期的な手紙での交信に対して、叱咤激励の返信をすることで心情の安定が図れる。 ・福祉に精通した相談支援専門員と連携することで、社会資源の多角的な活用が期待できる。 ・支援者間の連携がすすむことによって、状況に応じて誰もがキーパーソンになれるようになる。 ・最終的に逃げ込める場所を持つことで、生活の中に安心感を持たせられる。 ・新たな犯罪に巻き込まれることを防げる。

領 域	支 援 方 法	具 体 的 支 援
5. 社会的 リハビリ ② 社会生活技術	1. 金銭管理	① 計画性のある支出を考える。 a 本人の金銭管理力のアセスメント b 小遣いの自己管理 i 月の小遣いを決めて支援する。 ii 本人に収入見合いの支出指導 出納帳による収支合わせの訓練 iii 貯蓄の設定 c 買い物訓練により金銭感覚を習得する。 必要に応じて、食事のサポートも考える。 →食べられない事から犯罪へつながること ② 地域移行後の財産管理と生活費の支払い a 社会福祉協議会の金銭管理サポートの活用を 日常生活自立支援事業を活用する。 b 成年後見制度の市町村の申し立てを検討する。
	2. 余暇支援	・休日や連休において、目的のない自由時間 余暇の使い方について、自分で組み立てられ 味に応じて支援者側で選択肢を設けながら がある。 （例）休日の日課表と活動内容を一緒に表 ① 創作活動 生活の中で必要なことを表現するだけでなく、 つける。 ② 趣味や楽しみ支援 a 旅行などの計画・立案の助言 b 福祉サービスによる保養所などの活用 c サークル活動への参加（施設内・外） ③ 社会生活を送る上でのルールを守る a 地域社会との関係 b 近隣住民との関係 ④ 地域移行後は、相談支援事業所がトータルコ を支える。

方 法	期待される効果
<p>も多い。</p> <p>前提とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭管理能力が身につく、金銭大切さが理解できる。 ・家賃・光熱費等の自動支払いにより、居住の確保が容易にできる。 ・管理してもらうことによる安心感が生まれる。
<p>は孤独とへなり、再犯へ繋がりやすい。ない者も多い。はじめは本人の能力・興、ある程度の方向性を支援していく必要</p> <p>を使って組み立てていく。</p> <p>自分が感じていることを表現出来る方法を見</p> <p>ーディネートを行ないながら、暮らしと働き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での生活にゆとりを持つため、余暇活動を施設での生活段階から見出すことで心の安定につながる。 ・自分を表現できることで、ストレスを発散し、精神的に安定する。 ・余暇を充実させることで生き甲斐や楽しみを見出すことにつながる。 ・バスの乗り方等公共交通機関の利用の経験がないため、わからない場合があるが訓練することで利用の仕方が理解できる。 ・自分の健康状態の把握につながる。 ・地域力の向上とインフォーマルな資源の開発につながる。

領 域	支 援 方 法	具 体 的 支
1. 社会的 リハビリ ③就 労	段階的就労移行支援 1. 就労意欲の向上	① 第1段階（入所初期） a 就労体験 i できるだけ8時間の労働時間を作業場所にて ii 始業時の朝礼、終業時の反省会の実施 iii 1ヶ月間程度で作業種目を替え、適性を見 iv 仕事としての位置づけのもと作業活動に取 v 反省会時に日誌の記入 ② 中間期 a 施設内作業に集中する。 約束事を守る。 （例） ・挨拶をする。 ・作業内容等について、職員の指示に従 ・自分で判断して作業を行わない。 ・道具類を勝手に持ち出さない。 ・機械、スイッチ類は勝手に触らない。 ・他の利用者と協力する。 ・持ち場を勝手に離れない。 ・終了時は挨拶をする。 b 施設外作業（施設内作業に追加）に集中する。 i 約束事を守る。 （例） ・社会のルールを守る。 ・体調不良等は、我慢せず訴える。 ・礼儀正しく、まじめに働く。 ・良好な人間関係をつくる。 ii 事業所との連携・協力 ・トラブル時の迅速な対応と解決に向けて ・通院、服薬管理等の医療的配慮 ・定期的巡回指導 iii 通勤等交通機関の利用
	2. 就職活動支援	① 作業適性の把握 ・ 就労に向けた支援として作業適性の把握に努 ・ 本人にあった仕事内容を把握する事により、 a 障害者就業・生活支援センター登録 i 日記記入時に個別課題を設ける。 ii パソコンへの入力・文字の練習。 iii 職場見学・職場体験実習を通して具体的な b 障害者職業センターの職業評価 本人の作業能力、適性について、職業セン ② 就職活動を本人と行う a ハローワーク登録支援 i 面接の練習 ii 履歴書記入の練習 iii 就職先を自分の希望で探すこと ③ 職場見学の実施 ＊沢山の業種を見て希望職種をしばらく実習した である。 事前に面接を受ける。

援 方 法	期待される効果
<p>過ごす。</p> <p>ていく。 り組む。</p> <p>う。</p> <p>の協議</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業を通して協調性、集中力、持続力や適正などを判断することができる。 ・本人の就労に対する意欲を見ることができる。 ・自分に適した仕事を確認し、継続して行うことで自信と責任を持つことができる。 ・就労した時の基本的な態度が身に付く。 <ul style="list-style-type: none"> ・就労を目標に、地域生活をイメージできる。 ・事業所と連携・協力を図ることで社会適応能力を高められる。 ・巡回支援により、精神的安定を図れる。
<p>める。 就職先のアドバイスを行う。</p> <p>仕事のイメージを作る。</p> <p>ターの職業評価等を参考にして、説明する</p> <p>ほうが就労後、本人が顧み決断する時に効果的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービス利用時に具体的な仕事のイメージを作る事で、本人の望む職種・働き方（時間）等・本人の望む給与・休暇等を明確にし、就職活動につなげる事ができる。 ・適正を見極めることにより本人に適した仕事が見つけられる。 ・就労先を自分で探すことにより、大切にし、責任感と達成点を感じさせる。 ・本人が就職するときの手続き等について理解ができる。 ・職場を実体験することで働くことへの意識付けになる。 ・適性を評価し説明することにより、自己認識をし、今後の生活を考える事ができる。 ・今後の生活について、具体的なイメージができる。

領 域	支 援 方 法	具 体 的
5. 社会的 リハビリ ③ 就 労	2. 就職活動支援	<p>④ 職場実習</p> <p>* 1日～3日の体験実習から2週間～1ヶ月のアセスメントを取ることができます。会社のキーパーソンづくりのためにも有効的である</p> <p>a 約束事 (例) {</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、返事をはっきり、聞こえるように ・現場担当者からの指示に従う。 ・わからないことは自分で判断せず、現場 ・ミスをした場合はそのままにせず、現場 ・指示なく機械操作をしない。 ・身支度は清潔感のある物にすること。髪 <p>b 職場実習（実習計画書による確認、約束）</p> <p>c 実習終了後に実習についての反省会を行う</p> <p>* 雇用前提の実習の時は雇用前支援を活用することができ、職場定着支援につなげやすくなる。</p> <p>* トライアル雇用の場合の賃金目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 週5日、月8万円を目標とする ・ 障害基礎年金 6.6万円と合わせて自立を ・ 都道府県により最低賃金が違うが、65 <p>ると約8万円の収入が見込める。トライアル設定をしてしまうと常用雇用に移った後ヨンの低下に影響する。</p> <p>[犯罪歴の事業主・ハローワークへの告知]</p> <p>ハローワーク等の公的機関に対する履歴実と異なることを記載することはできない） 矯正施設に入所していた経歴については載という方法もあり得る。</p> <p>事業主に対して職場実習・トライアル雇を伝えるかは事業主によって異なることか 本人が職場に慣れるに連れ、事業主や同信頼関係が保てないと解雇の理由にされるからも適切な支援を得られることもある。 最初から大幅に縮小されることが考えられ</p>
	3. 就労定着支援 (地域移行後)	<p>① 初期定着期</p> <p>今後の暮らしに対する本人の希望</p> <p>a 定期的な電話、訪問等の形で事業所との連絡 ジョブコーチによる集中支援 →事業所での集中支援と仕事後のフォローアップ</p> <p>b 留意事項</p> <p>i 就労による本人の欲求対応の他にも、社会要である。</p> <p>ii 本人対一機関の関係でなく、関係機関同士</p>

支 援 方 法	期待される効果
<p>の実習の段階的な実習を入れることで、事業所・業種によって約束が違って来る事や、会社である。</p> <p>行うこと。</p> <p>場担当者に質問する。 担当者に報告する。</p> <p>の毛はまとめること。</p> <p>ると、スタートからジョブコーチも支援に入る</p> <p>目指す。 0円の1日6時間勤務を目標にスタートがきれる雇用中に会社に助成金が入るからといって高に収入が下がる場合があり、本人のモチベーションについて]</p> <p>書の提出において虚偽の記載は違法となる。(事 履歴事項に当たるが、本人の判断により、不記</p> <p>用・正式雇用という、どの段階で事業主に経歴から支援者として判断に迷うところである。 僚に自ら話してしまうこともあり、後で知って場合もある。一方、事前に伝えることで事業主むろん、経歴を知らせることで就労先の対象はる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職業評価を受けることにより、仕事の適性の把握が確認できる。 ・ 課題を設けることで、目標を明確にすると共に、自信が付けられる。 ・ 会社でのルール・マナーの習得につながる。 ・ 実習終了後に反省会を行い、反省点をどのように改善するかを話し合うことで次への実習に生かせる。 ・ 事業者からの評価を得ることにより、本人の意欲の向上と共に、問題点・課題を明確にできる。 ・ 将来の生活設計（金銭面）のイメージをつけられる。 ・ 犯罪被害者に対して刑期を終えても、社会的更生を行うことで、人生をかけて償い続けることを示すことができる。
<p>を行う。</p> <p>ップ</p> <p>的常識、他者との協調性について学ぶ機会が必</p> <p>の情報共有、対応方法の検討が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就労状況を定期的に確認することで、本人に対して緊張感を持たせる。 ・ 就労中における諸問題への対応が可能になる。 ・ 就職がゴールではなく就職がスタートであるという設定をし、夢や希望を話し合うことで仕事の必要性を見出し、更なるステップが望める。 ・ ジョブコーチによる事業所での課題分析等を通して、本人の仕事を解りやすく伝え、事業所内のキーパーソンを構築し、フェイディングを意識した支援により、より自然な関係性を事業所内で構築する事ができる。

領 域	支 援 方 法	具 体 的 支
5. 社会的 リハビリ ③就 労	3. 就労定着支援 (地域移行後)	iii 作業時における約束事を決め、守る。 (持ち場を勝手に離れない、終了時は後片付 iv 約束事を守る (例) ・ストレスが溜まったら家族(親)を中 ・イライラして仕方ないときは仕事を休 v 作業状況の観察。(作業場所への付き添い 作業から所外作業へ) ② 中期定着期 a 障害者職業・生活支援センターによる定着支 b ジョブコーチによる定着支援 c 就労支援員、ジョブコーチによる企業支援 d 各分野でのキーパーソン配置 e 施設内作業、外勤(就労実習)等作業活動の f 就労先(事業所)の関係 小遣いのアップなど働いたことによつての
	4. 離職した場合の支援 (地域移行後)	① 離職の予兆の確認 訪問(職場訪問・家庭訪問) i 本人は身体的理由の他、仕事のあれこれが ii 欠勤状況の確認する iii 支援者との「辞めたい」と言う以外のコミ 由が分からないまま離職する場合がある。 ② 再就職に向けての支援 a 本人の状況確認 自分からほとんど話さず、欲求がある場合の伝 b 再就職に向けての支援 i 就職の前段階の支援から試みることを提案 ii 時間をかけ、仕事を辞めた理由、仕事に関 iii 働きたい」と言う本当の理由の確認する。 iv 他の支援機関担当者等とコミュニケーション v 「家族と一緒に暮らす」ことを続けるため vi 通常の職場訪問で仕事の様子確認はできて 本人の内面の変化を把握した上で支援をして 合も考えらる。

援 方 法	期待される効果
<p>けをする)</p> <p>心とした誰かに相談すること。 み、相談すること。</p> <p>から単独へ、作業時間は半日から一日へ、所内</p> <p>援</p> <p>実施（社会適応訓練）</p> <p>メリットを本人に解りやすく伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の安定のため、適切なアドバイスを行うことにより、離職しないような解決方法を支援できる。 ・困ったこと、悩んでいること等を話すようにする。 ・様々な機関の連携で定着がより効果的なものになる。 ・事業所を巻き込んだ形で支援を展開する事により、人事異動による職場環境の変化・上司・キーパーソンの離職等の変化にも柔軟に対応でき、本人不安要素を取り除くことができる。 ・移行期をチーム支援を行いながら移行することで働くと暮らすを一体的に支援を展開でき、企業のための不安要素を取り除くことができる。 ・仕事に慣れ始めると、従業員の対応等周りの環境にも変化が見られる。会社から望まれる事もでてくるので、小遣いアップや旅行、本人活動など、生活の幅を広げる支援を行うことにより、仕事に対する意欲につながる。 ・各専門機関との連携により、的確な支援の実施につながる。 ・企業支援を行うことにより、問題、課題への早期解決が図れる。
<p>嫌と言い出す。</p> <p>コミュニケーションが困難な状況に陥り、本当の理</p> <p>達方法が屈折した表現になりやすい。</p> <p>する。 する考え方を確認する。</p> <p>ン等の訓練をする。 にはどうしたらよいか確認する必要がある。 いたが、</p> <p>いくには犯罪歴を事業主に伝えることがよい場</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・再チャレンジの仕組みづくりと本人の希望に沿った実際のアプローチによる就労意欲への助長につながる。 ・チーム支援を行うことで、離職した時から再就労のアプローチまでスムーズな移行ができる。 ・離職の権利を守る。離職してもチャレンジできるような仕組みを作ることで、ネガティブではなくポジティブに捉えられるような支援ができる。

資料④ 支援プログラム様式

- ① アセスメント表
- ② アセスメントからのチェックシート
- ③ プランニング表
個別支援計画（領域毎の支援目標・方法・場所・頻度・担当者）
- ④ モニタリング表
- ⑤ 更生保護施設用アセスメント表
- ⑥ 更生保護施設用プランニング表

① アセスメント表（入所調査時用）

(ふりがな) 氏 名		性 別	男 ・ 女
生年月日	昭和・平成 年 月 日 （ 才 ）		
本 籍			
矯正施設前居住地	居住地(生活実態のあった所)	〇〇県〇〇市〇〇〇〇〇〇〇	
	住所地（住民票のあった所）		
矯正施設名	〇〇刑務所（〇〇〇県〇〇市）		
本件犯罪 (非行)内容			
本件に至った 経緯・要因			
帰住予定地			
刑期満了日	平成 年 月 日 （仮釈放 平成 年 月 日 ）		
家庭環境	両親・家族等	<pre> graph TD A[父] --- B[母] A --- C[] B --- C B --- D[] C --- E[] </pre>	
	祖父母・親戚等		
	経済状況		
身元引受人	仮釈放時 施設職員 / 利用契約 (父・母)		
生育歴	幼児期からの主要な経歴 学校・施設・就職経験		

心 身 状 況	知能指数 I Q 田中ビネー・WISCⅢ (言語性) (動作性) CAPAS (検査日 平成 年 月 日) 身 長 c m 体 重 k g 身体障害 精神疾患 内部疾患 服薬状況
福祉サービスの利用状況	療育手帳 有(判定 判定日 判定機関)・無 身障手帳 有(判定 判定日 判定機関)・無 これまで受給していた福祉サービス 所得保障 現在の所持金・見込み (円 円) 障害基礎年金等年金の取得 有 ()・無 生活保護
本人の意思確認 (主 訴)	
施設の利用を必要とする理由	
当面の処遇方針	

② アセスメントからのチェックシート

視 点	犯罪に至った要因	支援の目標	領 域

③ プランニング表 (個別支援計画表)

氏 名		記録日	平成 年 月 日	
支援の領域	支援目標	支援方法	頻度・時間	担当者

④ モニタリング表 （ 個別支援計画表 ）

氏 名		記録日	平成 年 月 日
総合的支援目標		総合的達成状況	

支援の領域	支 援 目 標	達 成 状 況	計画見直しの要否又は内容

⑤ 更生保護施設用 アセスメント表

初回面接（個人別処遇資料）

NO

面接月日 年 月 日

面接者

氏 名 (歳)

○住民票

入所前の住所

転入先

異動の手続き（ 年 月 日 異動完了）

○健康保険

□加入済（ 年 月 日）

☐ 国民健康保険（ 年間）

○年金加入状況

加入状況 ☐無 ☐有る (☐国民年金、☐厚生年金、☐共済年金)

□納入状況（ ）

□受給状況（ ）

○運転免許証更新

☐ 非該当

☐ 該当

☐手続き完了（ 年 月 日）

○連絡の取れる親族

☐ 無

☐有

①氏名

続柄

電話

住所

②氏名

続柄

電話

住所

☐保証人を頼めるか

家族との親和

☐問題なし

□ 疎遠

(内容)

○傷病の治療

☐不要

□要

傷病名

傷病名

☐医療費の有無 ○有り ○無

□生活保護の実績

□今後の福祉との折衝の必要性

○服薬状況

☐ 無

☐有

病名

病名

薬の名前

服用頻度

刑務所での服用状況

☐服藥繼續 ☐要 ☐否

○飲酒癖

☐ 飲まない

□飲む

☐依存症歴あり

☐ 暴飲する。

☐ 飲酒で問題を起こした ☐ 特別遵守事項記載

□適量

○サラ金の整理

☐不要

□要

債務合計

円 元金合計

用

○資格・免許

☐ 無

☐有（ ）

○主な就労歴

自年月	至年月	社名	内容	給料他

○これからの就労計画

☐ 予定なし

☐ 予定あり（ ） 続柄（ ）

☐ 職種

☐ 今後の就労計画

○印象・生活歴など

○ここでの生活する上での問題点

○退所予定及び退所先について

○まとめ

⑥ 更生保護施設用 プランニング表

支援目標 ①
②
③

氏名：

		処 遇 計 画 (案)	
地域生活に必要な基本的 ニーズの領域（該当○）		本人のニーズ／状況 留意事項／備考	具 留意
遵守事項 等			
障害への認知の状況			
求 職 ・ 就 労	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲 ・希望 ・能力 ・就労 ・その他 		
生 活 基 盤 の 確 保	生計の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・年金 ・生保 ・資産 ・仕送り ・その他 		
	住居の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・GH ・アパート ・その他の住居 		
健 康 管 理	<ul style="list-style-type: none"> ・不調の感知と訴え ・服薬・病状管理 ・食事管理 ・アルコール・薬物 ・精神、身体の状況 ・その他 		
日 常 生 活 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除 ・整理整頓 ・整容 ・清潔 ・洗濯 ・買物 ・手続 ・貴重品 ・交通機関 ・食事作り ・その他 		
社 会 生 活 ス キ ル	<ul style="list-style-type: none"> ・対人関係・金銭管理 ・相談スキル・緊急時対応 ・コミュニケーションスキル (意思表示・伝達・会話理解) ・ADL・その他 		
社 会 参 加 ス キ ル	<ul style="list-style-type: none"> ・趣味 ・社会活動 ・その他 		
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・家族関係 ・その他必要な福祉サービス ・その他 		

作成日 ()
更新日 ()

[illegible]

Ⅱ．矯正施設を退所した知的障害者等の 受け入れマニュアル